

「豊島区子ども読書活動推進計画（第四次）」素案に対する  
豊島区図書館経営協議会（第1回）の委員意見概要

1 読書の質の向上を通して豊島区が目指す5つの「子どもの姿」について

【子どもの姿④】

読書を通じて「情報を読み解く力」「情報を分析して判断する力」を身につけ、情勢の変化に柔軟に対応し、よりよい社会づくりに貢献できる子ども

「確かな情報リテラシー（能力）の習得について」

- ・ 学びのための読書情報活用能力の育成を本計画内に入れたことに大きな価値がある。
- ・ 小・中学校では多様なメディアの活用を取り入れているが、情報の取捨選択の意義を学ぶために、本も活用していくべきである。
- ・ 情報リテラシーを十分に身に付けていない大学生が年々増えてきているなか、小・中学校での教育を図書館と学校や地域等とで連携して進めていけたらと思う。
- ・ 教員の知識や時間の不足を学校司書との連携でカバーする等、情報教育を担う教員と司書との連携が必要である。
- ・ 情報リテラシー教育は、指導者側の力量が必要となっている。教員の研修も進めているが個人差があるため、学校司書をもっと増やすことができれば、児童生徒のみでなく、教員も学校司書に相談できる環境が充実する。

【子どもの姿⑤】

自ら進んで「学び（読書）の循環（わ）」に入っていく子ども

「地域コミュニティの活性化について」

- ・ 本もインターネットも使う人がいる。人と人の中で本を読む行為が、図書館の場を地域の中に広げていくイメージである。コミュニティという中で人はつながる、その中で人は学ぶ大切さを感じていく。
- ・ 豊島区の学校では、コミュニティスクールの準備を進めている。地域の中の学校、地域と学びの材料を共有する。その中の一つが「本」である。あらゆる主体が本でつながることができる。本を通して人のつながりができたらよい。

- ・コロナ禍で人との接触が少なくなっている。読書のまちづくりがコミュニティの活性化となり地域づくりにつながる。コミュニティの拠点を図書館が担っていくのは良いことである。そのために、あらゆる主体との連携が必要である。

## 2 障害者に対する理解・教育について

- ・障害者のことを理解してくださる方はいるが、一部の層のみである。子どもたちから障害者について（読書環境等も含め）、理解していただくために、どのようにしていけばよいかは課題である。

## 3 不読率について

- ・中高生の不読率が課題である。本を読んでいないという学生は、使う語彙も少なくなっている。不読率改善に対し、学校でできることと図書館でできることを探求できるとよい。

- ・「不読率」というキーワードは重要でしたが、実態をつかめていない。たとえば人物像。「まったく本を読まないし、読む気もない」人と「普段は読んでいるけど、他に楽しいことがあるので今は読んでいない」人へのアプローチは異なる。マーケティングで言うターゲットによって、アプローチは異なるのではと思う。

## 4 計画を進めるための具体的な提案

- ・図書館のHPの資料の検索機能をよく活用している。キーワードで本を検索すると膨大な本が出てくる。そのリストを見るだけでもすごく興味深い。もっと図書館のHPに誘導する試み・仕組みを構築すれば、不読率の改善のきっかけとなるのではないかと。
- ・子どもと図書館の接点を増やすことが重要と考える。そのうえで、その接点から図書館・読書へどうつなげるかという視点で考えるとよい。例えば、LINEの豊島区図書館アカウントを作成して子どもとLINEでつながる（LINEから図書が検索できたりすると便利）ことや、学校図書館で区立図書館についての宣伝を行う（学校図書館で本が見つからない場合は区立図書館の蔵書を検索させるような仕掛け）といったことが考えられる。
- ・計画事業を実践する場として、子ども園、保育園や学童の場を活用する。あるいは、子ども園、保育園、学童を図書館の隣に立地する。
- ・イケ・サンパークの中古の良書を集めた図書室を、豊島区ならではのフォーマットにして、区内各地に広める。
- ・ピクニック&本、まちなかキャンプ&本などのイベントを、豊島区の定例にする。
- ・ベルリン・フィルハーモニーで首席指揮者だったサイモン・ラトルは、親と過ごす時間が少ない子どもたちを集めてオーケストラを組織して、一緒に音楽を作っていた。逆説的になるが、子どもにとって孤独の時間は、読書や芸術に触れるいい機会にもなる。夜間保育の場や「子ども食堂」などに「本との時間・空間」が組み込まれるといいと思う。

- ・街にひらかれた図書館というコンセプトがとても良いと感じた。
- ・公園での本棚の設置、貸し借り自由の本棚（区民が持ち寄るのも良い）
- ・子どもが本について語る場やイベント  
人に教えるとき、もっとも学ぶことができると感る。
- ・本のコンシェルジュ（司書さん）による本の紹介（講演、POP など）  
子どもの月齢や年齢にあった本の提案があると嬉しい。
- ・図書館内のレイアウトはまちまちと思いますが、最低紙芝居できるような広場があれば乳児、幼稚園児が楽しく与えられる環境があれば将来読書人口が増えるのではないかと思うが、レイアウトは見ていないと言えない。
- ・区内に芝生のある広場で青空紙芝居を実施して評価を判断して長期的な取組も必要かと思う。
- ・手話で語る物語を年最初は1回実施して障害者の理解を深めて行きたい。